

①授業の概要

単元名 スペシャルフィッシュのひみつを追え

目標

- ・サメの生態，漁の仕方，サメを使った加工品等について調べる活動を通して，地域の産業への興味・関心を持つ。
- ・フカヒレ以外の商品開発に至った経緯を地域の方の思いに触れながら調べ，スペシャルフィッシュと呼ばれる理由について自分なりの考えを持ち，発信できるようにする。

手立て

- ① 自分たちが住んでいる地域に焦点を当て，地理的な面や特産品等から気仙沼を見直させ，その特徴について自分なりの考えを持たせる。【視点1ーア】
- ② 自分の考えと友達の気づきや考えを伝え合わせることで，見方，考え方を広めさせる。
【視点1ーイ】
- ③ 本単元では，気仙沼港に多く水揚げされるサメについて学習してしていくことを確認する。
【視点1ーア】

②事後検討会から

成果【視点1ーア】（思いや考えを持たせる工夫）

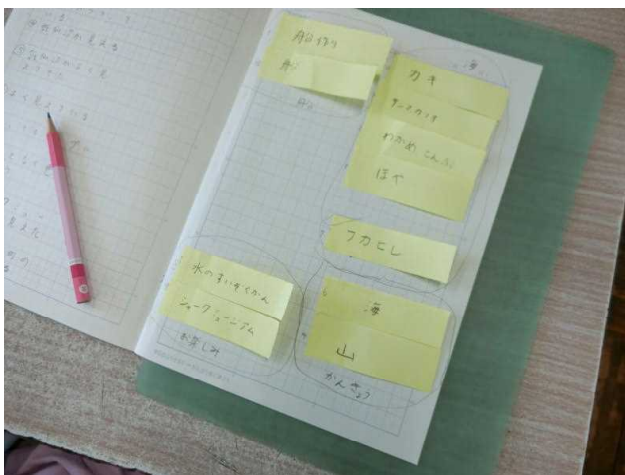
- 自分の考えを付箋に書かせることで，意欲が高まり，仲間分けをする作業がしやすかった。
- ICT機器を活用した導入は，興味・関心を高めた。
- 付箋の仲間分けの作業は，例示があって分かりやすかった。
【視点1ーイ】（思いや考えを伝え合わせる工夫）
- 積極的に発表する児童が多かった。
【視点1ーウ】（学びの成果を実感させる工夫）
- 仲間分けをした後に見だしを付けさせることで，気仙沼は海と関係が深いことに気付かせることができた。
- 活動内容をディスプレイで示してあったので，ユニバーサルデザインの視点からもよい。

課題【視点1ーア】（思いや考えを持たせる工夫）

- 世界から気仙沼に徐々にズームアップするGoogleマップをは，3年生という実態から，地図の見方を学習していないため，地形に着目させるなど焦点化するとよかった。
【視点1ーイ】（思いや考えを伝え合わせる工夫）
- コロナウイルス感染症の問題もあるが，対話の仕方を検討する。
【視点1ーウ】（学びの成果を実感させる工夫）
- 気仙沼と関係ない方向に行っている児童が見られたので，今後修正する必要がある。

続けていきたいこと

- ・ パワーポイント等のプレゼンテーションソフトやICT機器の活用
- ・ 付箋など個人の考えを書かせる活動。
- ・ 自分の考えを発表させる機会の設定



【気仙沼といえば…。付箋に書き出した。】



【気仙沼は海と関係が深いことを確認した】